



アグリツーリズム
Agriturismo 大森家
代表
大森 友子^{ともこ}さん(土淵町、61歳)

遠野のホップは人と人をつないでくれる

ホップ畑がある風景やビールを求めて、年間1,000人ほどを宿泊とランチでおもてなし。ビールに合うパドロンや料理と一緒に提供しています。食卓を囲んで交わす会話にはやっぱりビール。リピーターもいて、また遠野を訪れてくれます。

ホップをきっかけに遠野を知り、好きになる——。ホップにはそういう魅力があると思います。



認定NPO法人遠野山・里・暮らしネットワーク
田村 隆雅^{たかまさ}さん(中央通り、43歳)

畑を巡るサイクリングツアー、大好評です

グリーン・ツーリズムとして取り組む「里山ホップサイクリングツアー」は、2021(令和3)年から開始。都会から訪れる観光客が多いです。ツアーは、自転車で観光名所やホップ畑を探訪。ゆっくりとありのままの遠野を旅行できて満足と大好評です。

市内を回遊した後はビールで乾杯。ホップがあるからこそ、生産地を訪れてくれると思います。



飲食店経営
新田 力^{ちから}さん(早瀬町、60歳)

ビールを飲むために遠野を訪れてくれます

遠野産ホップを使用した一番搾りとれたてホップ生ビールは発売当初から入荷。全国各地から発売を楽しみに待っているたくさんのお客さまに来てもらっています。「今年もおいしい」、「また来年発売されたら飲みに来ます」と言われると嬉しくなります。

今年の発売が解禁されたら、市内の飲食店に来て、ぜひ皆さんで飲んでほしいなと思います。



1_ 8月19・20の両日に行われた遠野ホップ収穫祭2023。サンプラザ中野くん・パッパラー河合さんによるライブは多くの観客で盛り上がった 2_ みんなで「乾杯！」 3_ あいさつを行う田村実行委員長 4_ 今年は60周年のロゴ入りエコカップが販売された 5_ 収穫祭では、ホップ畑見学を実施。ビールもホップも楽しめるイベントは人気 6_ TKプロジェクトに参画するJR東日本盛岡支社はイベントに合わせて「遠野ホップ収穫祭号」を運行 7_ ホップ畑サイクリングツアーの様子。畑まで自転車で行き、ホップ農家から説明を受ける 8_ 民泊先で極上の一杯。海外から訪れる観光客も遠野を満喫



ホップが育む遠野のまちづくり

「ホップの里からビールの里へ」をスローガンに掲げて8年。市内ではイベントや飲食店、旅行などへにぎわいが広がっています。ホップを生かしたまちづくりの取り組みを紹介します。

ホップの一大産地を誇る本市。栽培開始から60周年を迎え、市内ではホップを生かしたまちづくりや観光への取り組みが行われています。市とキリンビールは、地域活性化のため、「TKプロジェクト」を2007(平成19)年に発足。その後、2015(平成27)年に「ホップの里からビールの里へ」をスローガンに掲げ、同年から遠野ホップ収穫祭を開催しています。今年は8月19・20の両日に開催。市内外から約9000人が来場し、遠野産ホップのビールや食を楽しみました。企画運営を行った田村淳一^{あついち}実行委員長は、「イベントを通じて遠野の地や遠野産ホップが皆さんにとって大切なものになってくれたら嬉しい。皆さんの応援によって遠野のホップ栽培が盛り上がり、未来へとつながっていきます。これからもホップやビールを通じたまちの魅力を発信していきたい」とあいさつ。同収穫祭は、ビールを味わうだけでなく、ホップ畑見学ツアーも実施。見て、触れて、香りを楽しむイベントは、遠野の夏を代表する行事へと発展しました。ホップを通じたまちづくりの取り組みは、市内飲食店や農家民泊などにもにぎわいを見せます。ホップ畑を訪れるビアツーリズムで畑や醸造所を見学。ビールができるまでの工程を知り、「ここでしか味わえない」遠野を満喫します。その

後は飲食店や民泊先で遠野産ホップのビールと地元産品を堪能。市内には新たな活気もたらされています。ホップから始まった産業振興の取り組みは、遠野のまちづくり発展に寄与。市内経済の発展や交流人口の拡大につながり、遠野ファンの輪が広がっています。